

大森学園高等学校 工業科

第1回 2月10日

令和7年度 入学試験問題

国語

注意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙にも受験番号を算用数字で記入しなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 問題は問1から問25までで1ページから14ページにわたって印刷してあります。
- 5 解答はすべてマークシートで答えるようになっていきます。この問題用紙の裏に書いてある解答用紙記入上の注意をよく読んで答えなさい。
- 6 解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。

受験番号

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

五感とは歴史的産物である。

〔A〕、現代では電車の走行音や発車音は騒音だと思われることが多い。だが、鉄道が誕生したばかりの一九世紀末の米国では、その音はモダンで科学技術発達の象徴としても捉えられていた。

目や耳、舌など身体の内ゆる感覚器官の働きが、時代によって必ずしも変化するわけではないし、個々人が感じ取る身体的刺激そのものには個人差があるかもしれない。〔B〕、ある時・ある場所に生きる人々の間で共有される感覚体験やそれらに対する認識は、技術や経済、社会的要因によって変化しており、時代性を伴うものである。

一九八〇年代以降、欧米を中心に「感覚史」という研究分野が提唱され、感覚は研究対象の一つとして歴史学者や人類学者から注目を集め始めた。五感を歴史的に捉えることは、人々が生きる環境がどのように変化してきたのか、そしてその環境の変化を人々がどのように認識し理解していたのかを考えることである。

〔C〕感覚の歴史は、存在論および認識論と深く関わる問題である。身体は物理的なモノとして在るだけでなく、文化的なものでもあり、その物理的・文化的構築物としての身体を通して人々は周辺環境を認識するのだ。

①「景色」という語は、「景色を見る」のようにしばしば視覚と結び付けられるが、実際には、その場所を訪れる場合には、見るだけでなく、音や匂い、空気感のようなものを感じ取るし、写真など視覚メディアを通してその景色を見る場合であっても、その場の音や匂いなどが自然と想像されることもあるのではないだろうか。

仏教用語で「色」とは、広義には五感によって認識される物や現象、それらの総称という意味もある（狭義には視覚で認知される物を意味する）。ならば「景色」が五感で感じ取るものだとしても納得できるような気がする。五感で感じるものとしての（広義の）景色がいかに作り出され、また変化してきたのか、そしてその景色を人々がいかに感じ、理解していたのかを掘り起こすのが感覚史だといえるかもしれない。

〔D〕、人々の感覚体験・感覚世界はどのように変化してきたのだろうか。まず、産業化や工業化、都市化が急速に進んだ一九世紀末から二〇世紀初頭の米国を例に考えてみたい。ヴァルター・ベンヤミンは、交通網の発達や工業化による社会変化を近代化による「ショック」体験だと捉えているが、まさにこの時期は、特に都市部における生活環境・生活様式の変化が人々にとって心身的「ショック

ク」を与えるものだったともいえる。

それは普段の食生活——味覚体験——も例外ではない。一八七〇年代以降、大量生産時代をいち早く迎えた米国では、急速な工業化と市場の拡大に伴い、農業生産者や食品加工業者らは、効率性や標準化に重点を置いた生産の合理化を図ろうとした。

これにより、時季や産地に依らず色や味が規格化された食品の生産が必要となった。そして、トマトやリンゴなどの野菜や果物から、缶詰やマーガリンなど加工食品にいたるまで、どこで購入しても、同じ色、同じ味のものが作られ、食べられるようになったのだ。

たとえば米国フロリダ州のオレンジ。同州で栽培されていた一部の品種は、温暖な気候のため、皮の色がオレンジ色に変化しないまま、身だけが熟することがある。フロリダの生産者らは、緑色の「完熟」オレンジは、たとえ中身が熟していても全国市場では売れないと考え、一九三〇年代初め、合成着色料を用いてオレンジの皮を着色するようになった。

つまり、消費者が期待する味、または消費者が求めているだろうと生産者が考える味に「合致」する色を作ろうとしたのである。だが果物に着色することは自分たちを欺く行為だと考えた消費者からは抗議が殺到した。

ここで興味深いのは、多くの消費者が、熟したオレンジの「自然な」色はオレンジ色であるべきだと考えていたことである。この場合、実際には、緑色の方が熟したオレンジの「自然な（人工的に手を加えていない）」色であるにもかかわらずだ。

いつでも、どこでも、画一化された食品が市場に出回るようになったことで、多くの人々が共有する「あるべき」色という認識が次第に構築されていくと同時に、そうした認識は、翻って生産者らが予測可能で画一的な色を作るための更なる動機づけとなったといえる。

レオ・マルクスが「庭園の中の機械 (machine in the garden)」と呼んだように、農業の工業化・機械化が進んだことで、自然と人工の境界は溶解し、^②「自然」とは自然と人工のハイブリッドとして生み出されるようになったともいえるだろう。そしてオレンジのみならず、さまざまな食品の色、そして味が次第に標準化され、スーパーマーケットや食卓の景色が大きく変化したのである。

米国で食をめぐる視覚・味覚環境が大きく変化した二〇世紀初頭は、日本でも新たな感覚世界が生まれた時期である。それは、一九世紀末以降の資本主義社会の拡大が米国のそれとは違う意味を持ち、また異なる形で立ち現れたといえるかもしれない。

明治末から昭和初期は、新しいフードスケープ（食を取り巻く空間・環境）が誕生した時代である。コロケやトンカツなど当時では珍しかった洋風の料理が広まり始めるとともに、新たな外食文化も生まれた。一九〇二年（明治三五年）には調剤薬局として創業した資生堂薬局（現 資生堂）が、アイスクリームやソーダ水の製造・販売を行うソーダファウンテンを店内に開設し、後の「資生堂パー

ラー」に発展した。白木屋や三越など老舗デパートが食堂を開設したのもこの頃である。(ア)

一般庶民には依然として高嶺の花ではあったものの、西洋料理がレストランで提供されたり、雑誌で取り上げられたりすることで、次第に多くの日本人が西洋的な料理を見たり、食べたりし、「近代化」を感覚的に体験していたともいえるだろう。

また、東京や大阪などの都市部では、近代的都市空間が新たな感覚世界を生み出しもした。たとえば、江戸時代に呉服屋として始まったデパートは、従来の日本建築の店舗から西洋風のビルに建て替えられた。(イ) 東京では、馬車や人力車に代わり、一八九〇年代に路面電車が開通。また大正以降、それまで上流階級層に限られていた洋装が次第にも広まり始め、和服姿の多かった歩道には、最新の洋装と西洋風の化粧で身を固めた「モガ(モダンガール)」や「モボ(モダンボーイ)」が闊歩する姿も見られるようになる。(ウ) こうした変化は、ファッションスタイルや建造物など視覚環境の変化のみならず、電車の走行音や海外の香水・化粧品などの匂いなど新たな感覚的景色が都市の一部となったことを意味していた。

③ このような新たな感覚体験は、さまざまな摩擦や価値観の衝突の中で生まれたものでもあった。電車の登場は、馬車や人力車事業に携わっていた人々から職を奪うことにもなり、実際、車夫からの反発を受けた。(エ) 激動する社会で、取り残されてしまった人々、その変化を享受しようとする人々、一方で抗おうとする人々の生が、当時の感覚世界から見えてくる。

大量生産時代の視覚の「X」化にせよ、近代化による感覚体験の西洋化にせよ、これらは一見すると、資本主義システムの拡大により人間が「本来」持っていた豊かな感覚が単調になってしまったり、日本「本来」の感覚が「Y」的なるものに置き換わってしまったようにも見える。だが、歴史を通して人間の「Z」は変化してきたのであり、「本質」や「本来あるべき」ものとは、連続と続く歴史の中で作られるものではないだろうか。

このことは、人々が感じ取る感覚、そしてそこから生まれる種の価値観や認識は、社会的コンテクストの中で読み取る必要があることを意味している。たとえば、洋装や洋風建築のように現代の私たちには当たり前前に感じるものや景色は、二〇世紀初頭の日本人の多くには驚きや興奮、はたまた厭気を招くものだった。このように、政治的・経済的・社会的状況の中で作り出される感覚体験は、その時代・場所特有の意味を持つものである。

歴史とは、単なる過去の「できごと」の寄せ集めではない(また、何が歴史的に「重要な」できごとなのかが決まる過程は政治的である)。英語「ヒストリー」の語源は古代ギリシャ語で「探究」を意味しており、また『三国志呉書』では「歴史」は「人類が経てきた時間」を意味するものとして使われたという。つまり歴史は、社会の変化を読み解く作業である。

個々の事象を点で結んだ歴史理解（年表的歴史観といえるかもしれない）ではなく、流れる時間とそこに生きる生身の人間に目を向け、どのような変化が、なぜ、誰によって起こり、いかなる影響があったのか、それらを丹念に掬い出し探究するのが歴史家の仕事である。多様な感覚体験とそれを取り巻く世界を多角的に捉えようとする感覚の歴史は、過去の人々がいかに生き、感じ、考えていたのかを理解するためのヒントを与えてくれるのではないだろうか。

（久野愛『感じる歴史』）

注1 広義・・・広い意味。

注2 翻って・・・反対に。

注3 画一的・・・何もかも同じようにそろっていること。

注4 溶解・・・とけること。

注5 闊歩・・・いばつて歩くこと。

注6 車夫・・・人力車を引く人。

注7 連綿・・・長く続くこと。

注8 コンテキスト・・・背景。

問1

A・B・C・

D

に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマーク

しなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|---|-----|
| ア | A | けれども | B | すると | C | もしくは | D | しかし |
| イ | A | たとえば | B | だが | C | つまり | D | では |
| ウ | A | そのうえ | B | そこで | C | しかし | D | そして |
| エ | A | そこで | B | しかも | C | ところで | D | ただし |

問2

線①「景色」とあるが、ここでの景色とはどのようなものか。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 物理的なモノとしての人間が周辺環境を視覚で感じ取る景色。
- イ 写真や視覚メディアを通しての視覚で認識される景色。
- ウ 音や匂いのように身体を通して視覚以外の感覚で感じ取る景色。
- エ 視覚だけでなく聴覚、嗅覚、触覚、味覚の五感によって認識される景色。

問3

——線②「『自然』とは自然と人工のハイブリッドとして生み出される」とあるが、これをオレンジの例として説明したものとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 完熟したオレンジの色や味はさまざまであるが、消費者たちは視覚を重視し、生産者への果物の着色を積極的に求めたために、生産者たちは多様であることの良さをわかっていながらも見た目が同じオレンジを生産するようになったということ。
- イ 完熟したオレンジの色や味は同じであるが、急速な工業化と市場の拡大によってさまざまな色や味を持つオレンジが生産され、それに伴って、消費者たちも多様な色や味のオレンジを求めるようになったということ。
- ウ オレンジの色は時季や産地によりさまざまであるが、消費者がオレンジの色が緑色であるという共通した認識を持ったことで、生産者たちが一気呵成かせいに緑色に着色したオレンジを生産するようになったということ。
- エ オレンジの色や味は時季や産地によりさまざまであるが、多くの人がオレンジのあるべき色や味という共有の認識を持ったことで、生産者たちが一様に色や味のそろったオレンジを生産するようになったということ。

問4

本文から脱落した次の一文を戻す箇所として最も適当なところを（ア）・（イ）・（ウ）・（エ）の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

〈脱落文〉 「モガ」や「モボ」らは、社会風紀を乱す存在としてそのイメージが広まりました。

問5

——線③「このような新たな感覚体験」とあるが、その説明として適当でないものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア コロッケやトンカツなど洋風の料理が広まった。
- イ 馬車や人力車に変わり、路面電車が開通した。
- ウ 東京では江戸時代から続く呉服屋が日本建築の店舗として登場した。
- エ 洋装し、西洋風の化粧をほどこしたモダンガールやモダンボーイが登場した。

問6 X・Y・Zに入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- | | | | | | |
|--------|------|------|--------|------|------|
| ア X 画一 | Y 東洋 | Z 意識 | イ X 画一 | Y 西洋 | Z 感覚 |
| ウ X 多様 | Y 東洋 | Z 西洋 | エ X 多様 | Y 西洋 | Z 近代 |

問7 本文の内容を説明したものととして適当でないものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 十九世紀末から米国では急速な工業化が起こり、似たり寄ったりの商品が出回るようになった。
- イ 二十世紀初頭の日本では近代化により西洋的なものが多く現れ、新たな感覚体験をするようになった。
- ウ 人間が持っていた豊かな感覚は時代や場所が変わっても変化するものではない。
- エ 個々の事象を点で結ぶのではなく、生身の人間や、感覚体験に注目することで歴史探究はさらに深まる。

次の文章は瀬尾まいこの『その扉をたたく音』の冒頭部分である。よく読んで後の問に答えなさい。

いた、天才が。いや、ここまできたらもはや神だ^①。どうしてこれほどの能力のあるやつが、こんなところ^②にいるのだろう。真の神は思いもかけない場所にこそ、現れるものなのだろうか。

目の前の男がサククスで奏^{かな}でる音楽。最初の音を聴いただけで、俺は体中が反応するのを感じた。そして、演奏が進むと、胸の奥のそのまた奥。自分でも触れたことのない場所に、音が浸透していく。

俺だけではない。目の前に座る、じいさんやばあさんも涙ぐんでいる。当然だ。この本物の音を聴けば、自然に心は揺らされ涙はあふれる。一切の混じりけのないAの音楽。もつと耳に刻み込もうと俺は目を閉じた。そのとたんだ。サククスだけでなく、今にも倒れそうなしわがれた声が耳に届き始めた。いったいなんだと目を開けると、目の前ではじいさんやばあさんが、音程もテンポも無視し思い思いに、「故郷」を口ずさんでいる。おいおい、お前ら感動してたんじゃないのか。黙って聴きほれていればいいものを。俺がサククスの音だけに耳を澄まそうとするのをよそに、じいさんたちの歌はどんどん盛り上がっていく。

山は青き故郷
水は清き故郷

全集中力をもってしても、じいさんたちの声は耳から追いつけず、年寄りのかすれた声を聴いているうちに演奏は終わってしまった。

「宮路さん、今日はありがとうございました」

演奏を終えた神様は、サックスをテーブルの上に載せると、俺の前に来て深々と頭を下げた。

「いや、まあ」

「宮路さんのギターと歌を聴いて、利用者さんもみんな喜ばれてました」

「ああ、それならよかった」

嘘だ。神様がサックスを吹き始めるまで、じいさんもばあさんもしかめっ面をしているか、居眠りしているかだった。

ギターの弾き語りをするよう、俺に与えられた時間は、四十分。演歌や唱歌。年寄りの知っている曲を歌ってやろうかとも思ったけど、音楽って迎合するものじゃない。俺の奏でたい曲に誰かが乗ってくる。それが音楽だ。だから、あえて好きな曲を歌った。ミスチルにバンブ・オブ・チキンにグリーン・デイにオアシス。ついでに俺のオリジナルソング。

ミスチルを歌っている時はバラバラ拍手も聞こえた。それが、洋楽になると半数が眠り始め、俺のオリジナル曲を披露するころには、拍手は一切聞こえなくなった。今を生きる魂の叫びを歌った渾身の歌なのだ。まあしかたがない。年寄りには洋楽もロックもポップスもわからないのだから。

俺が静けさの中、前に立つのにいたたまれなくなったころ、神様がやってきた。

「まだ時間がありますか、どうしましょう？ 切り上げましょうか？」

そのとたん、眠っているか途方に暮れていたじいさんやばあさんが「コウちゃん、吹いてちょうだいな」「わけわからん曲聴かされて耳おかしくなったわ。ええ歌聴かせて」と口々に言いだした。そして、奏でられたのが、あの「故郷」だ。

「また機会があればぜひいらしてください。ありがとうございました」

(ア) サックスの腕前もすぐければ、Bも完璧だ。神様はにこやかな笑顔で俺にそう言うと、会場を片づけ始めた。

「いやいやいや、君。君、すごいだろう?」

(イ) 胸元には渡部わたべと名札がついている。俺と同じくらいか少し年下だろうか。背はすらりと高く、サックスを吹いていた時は力強く見えただ体も目の前になると意外に華奢きゃしゃだ。

「サックスだよ。すごいまいじゃん」

「ありがとうございます」

「プロ級だろ? いや、神だ神」

「気に入ってただけてよかったです」

言われ慣れているのだろうか。神様はさらりと流すと、「デイのバスがもうすぐ来るから一階フロアに移動お願い」と他のスタッフに指示を出した。

(ウ)

「聴いてたじいさんやばあさん、泣いてたぞ」

「利用者さんはすぐに泣かれる方が多いんですね。この前、腹芸を見せに来てくれた大学生たちがいたんですけど、彼らが帰る時にも涙を流されてました」

なんだよ。腹芸でも感動するくせに、俺の歌には無関心とは、じいさんたちってどれだけセンスがないんだ。

「つていうか、君のサックスさ……」

「あ、すみません。いろいろお話したいんですけど、今から利用者さんの送りがありまして」

「ああ。そっか。そうだな」

(エ)

渡部君は軽やかな笑顔を見せたまま、手も足もてきばき動かしている。威圧感はないけど、邪魔をしちゃいけないという空気がそこにはある。

「それじゃあ」

「本当にありがとうございます」

「ああ」

渡部君に一礼し、歩き始めた俺は振り返った。

あの音を、あの音楽を、もう一度聴きたい。④ どうしたって、それをあきらめるわけにはいかなかった。

「いや、ちょっと待って。君、その渡部君、また【X】のか？」

「ええ。今日は湿気が多くて床も滑りそうなので。雨が続くと、困りますね」

さっきパイプ椅子を片づけていた手は、もうモップを握っている。こいつ、動きも神業なみわざだな。

「いや、床じゃなくて、サックス」

「サックス？」

「また今日みたいに【Y】のくなって」

「どうでしょう。金曜はレクリエーションがあるので、ボランティアで来てくれる人が見つからなかったり、今日の宮路さんみたいに時間がもたなかったりした場合は吹くこともあります」

金曜日。誰も芸を披露する人間が来なかったら、またあのサックスを聴く機会がある。それがわかれば十分だ。

「わかった」

俺はそううなずくと、老人ホーム「そよかぜ荘」を後にした。

問8 —— 線①「神」とは誰のことか。適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア ミスチル イ 宮路 ウ 渡部 エ じいさん

問9

——線②「こんなところ」とあるが、具体的にどこを指しているか。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 自分でも触れたことのない場所 イ 老人ホーム「そよかせ荘」
ウ 公民館の一階のホール エ 地域の集会場

問10

□A・□Bに入る四字熟語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア A 自画自賛 B 大義名分 イ A 正真正銘 B 社交辞令
ウ A 日進月歩 B 美辞麗句 エ A 一喜一憂 B 起承転結

問11

——線③「じいさんもばあさんもしかめっ面をしているか、居眠りをしているかだった」とあるが、このときの状況の説明として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア ギターにはまったく興味を示さず、次のサックスの演奏まで時間を持って余している様子。
イ 音程も曲のよさもわからない周りの人に対し、あきれると同時にあきらめている様子。
ウ 必死になって演奏を聴こうとしているが、どうしても理解することができず、疲れきっている様子。
エ 理解できない音楽なのでどう反応していいのかわからず、徐々に退屈し始めている様子。

問12

——線④「どうしたって、それをあきらめるわけにはいかなかった」とあるが、このように思った理由として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 心から感動した本物の演奏をもう一度味わいたかったから。
イ 自分のギターと彼のサックスで一緒に演奏したかったから。
ウ どうしたら聴いている人たちに感動を与えられるか知りたかったから。
エ 自分もサックスを演奏できるようになりたかったから。

問13 【X】・【Y】に入る漢字の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- | | | | |
|--------|------|--------|------|
| ア X 吹く | Y 吹く | イ X 吹く | Y 拭く |
| ウ X 拭く | Y 吹く | エ X 拭く | Y 拭く |

問14 本文から脱落した次の一文を戻す箇所として最も適当なところを本文中の(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

〈脱落文〉 「えっと、何がでしょう？」

次の文章は『十訓抄』の一節であり、「人倫（人間）を侮らざる事」と題する文章の序文である。人を見下す人の言動やそのなれの果てが描かれ、さらには人として守らなければならないことまでが教訓として示されている。よく読んで後の問に答えなさい。

ある人はいはく、人を侮ることは、色変はれども、必ずあることなり。

あるいは貧しく賤しきをも侮る。あるいは不覚なるをも侮る。下がりざまなるをも侮りて、すること、言ふことをも、さばかりにこそと思へり。あるいは親しみ、むつるるをも侮り、おほかた不運なるものをば、所行、ことがら、よからぬやうに思ひ、賤しきものは振舞ごと、いたづらごとと思へり。これは無智の人のあることなり。

これによりて、言ふまじきことをも言ひ、すまじきわざをも振舞ふほどに、「あなづる葛」に倒れして、思はざるほかの恥ぢがまじきことにもあひ、言はるまじきものにも言はれぬれば、人に軽く思ひけがされ、心劣りせらるるなり。

孤児、寡婦なりとも欺くべからず。おもく本文の心を信ずべし。人にとりて、かたく執すべきことなり。

注1 色変はれども・・・状況は違うけれど 注2 賤しき・・・身分の低い者 注3 不覚なる・・・考えの足りない者

注4 下がりざま・・・身分の低い方の者 注5 むつるる・・・仲良くつきあっている相手

注6 あなづる葛・・・あなづる（侮る）という葛や蔓 注7 寡婦・・・夫に先立たれた女 注8 本文・・・書物

問15

——線①「さばかりにこそと思へり」とあるが、この内容についての説明として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 貧しくて身分の低い者であってもいつまでも落ちぶれてばかりはいないはずだと思って恐れを抱いていること。
- イ 思慮分別の足りない人間であっても学問を続けていれば社会で頭角を現してくると感じて敬意を示していること。
- ウ 身分の低い者が学問をしてもどうせ役には立たないと決めつけて馬鹿にするどころか相手にもしていないこと。
- エ 身分が低い人間の言うことやすることもどうせくだらないことだと思い込んで見下しているということ。

問16

——線②「いたづらごとと思へり」とあるが、この内容についての説明として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 身分の低い者のすることは無意味なことだと思っていること。
- イ 日頃仲良くしている人の言葉は常に有益だと思っていること。
- ウ 親しく交わっている人の行動は見習うべきだと思っていること。
- エ 運の悪い人の仕事はいつでもうまくいかないと思っていること。

問17

——線③「言ふまじきことをも言ひ、すまじきわざをも振舞ふ」とあるが、この主体（動作主）として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 貧しく賤しき人
- イ 不覚なる人
- ウ 不運なる人
- エ 無智の人

問18

——線④「人に軽く思ひけがされ、心劣りせらるるなり」とは、「人に軽んじられ、劣っている者と見なされる」という内容であるが、そうなる理由の説明として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 他人を侮ることで憎しみを買ひ、その仕返しを受けているから。
- イ 他人を侮り、発言や行動までが軽率になってしまっているから。
- ウ 意識しないような恥辱を、相手に味あわせてしまっているから。
- エ 生い茂る葛や蔓に足を引っかけて、無様な姿を見せているから。

問19

——線⑤「かたく執すべきことなり」とは「堅く心に守っていかなければならないこと」という意味だが、どんなことを「執すべき」と言っているのか。次の中から適当でないものを選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

- ア 親のない子や夫に先立たれた女を欺いたりしないこと。
- イ 書物に戒められた事柄の意味を信じて深く受け止めること。
- ウ 身分の低い人や考えの足りない人を侮ったりしないこと。
- エ 自分の失敗を不運だと言って悔いたり嘆いたりしないこと。

問20

次の文の——線のカタカナにあてはまる漢字を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。
学園祭のポスターをケイ示する。

- ア 敬 イ 景 ウ 掲 エ 啓

問21

次の文の——線のカタカナにあてはまる漢字を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。
夏休みに小説をアきるほど読み返す。

- ア 飽 イ 合 ウ 空 エ 明

問22 次の□に共通してあてはまる漢字を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

奇□ □力 □談

ア 術 イ 強 ウ 実 エ 怪

問23 次のア～コの中から、後の語群の読み方に該当しないものが一つある。その記号を解答欄にマークしなさい。

ア こつずい イ きし ウ かきよう エ ぶんじよう オ もほう
カ ほくおう キ きせい ク ふじよう ケ ひようちやく コ とうこん
語群【 闘魂 骨髓 分譲 棋士 既成 模倣 北欧 浮揚 佳境 漂着】

次の——線の品詞は何か。後にあげるア～コの中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

問24 昨年、パリでオリンピックが開催された。

問25 能登半島では、甚大な被害に見舞われた人たちがたくさんいる。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 接続詞
カ 感動詞 キ 連体詞 ク 副詞 ケ 助詞 コ 助動詞

解答用紙記入上の注意

受験番号、氏名の記入方法

右の記入例をよく見て正しく記入して下さい。

記入例は31940の場合です。文字欄に受験番号と氏名を記入し、受験番号のマーク欄に線をひいて下さい。

受験番号・氏名記入欄	マーク欄	受験番号				
		[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
		[1]	[1]	[1]	[1]	[1]
		[2]	[2]	[2]	[2]	[2]
		[3]	[3]	[3]	[3]	[3]
		[4]	[4]	[4]	[4]	[4]
		[5]	[5]	[5]	[5]	[5]
		[6]	[6]	[6]	[6]	[6]
		[7]	[7]	[7]	[7]	[7]
		[8]	[8]	[8]	[8]	[8]
[9]	[9]	[9]	[9]	[9]		
文字欄	3	1	9	4	0	
	氏 名					
大 森 太 郎						

解答欄の記入の仕方

- 問題は問1から問25までで1ページから14ページにわたって印刷してあります。
- 問題によって解答群は(ア)から(エ)まで、あるいは(ア)から(コ)までなどさまざまですが、答えは1つしかありません。
- 各問題の答えは解答用紙に明確にマークしなさい。
- 問題をよく読んで、解答群の中から、正しいと思う答えの記号を選びます。

例 次の熟語の読み方の正しい解答を選びなさい。

会得(ア. エトク イ. アイトク ウ. カイトク)

正しい答えは「ア」ですから、文字欄に(ア)と記入し、

「解答マーク欄」に線をひきます。(右記入例参照)

- 解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
- 試験時間は50分です。
- 合図があるまで開かないで下さい。

マークシート記入例

4	3	2	1	解答番号
			ア	文字
[ア]	[ア]	[ア]	[ア]	解答マーク欄
[イ]	[イ]	[イ]	[イ]	
[ウ]	[ウ]	[ウ]	[ウ]	
[エ]	[エ]	[エ]	[エ]	
[オ]	[オ]	[オ]	[オ]	
[カ]	[カ]	[カ]	[カ]	
[キ]	[キ]	[キ]	[キ]	
[ク]	[ク]	[ク]	[ク]	
[ケ]	[ケ]	[ケ]	[ケ]	
[コ]	[コ]	[コ]	[コ]	
34	33	32	31	解答番号
				文字
[ア]	[ア]	[ア]	[ア]	解答
[イ]	[イ]	[イ]	[イ]	
[ウ]	[ウ]	[ウ]	[ウ]	
[エ]	[エ]	[エ]	[エ]	
[オ]	[オ]	[オ]	[オ]	